

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	事業対象 8 村区において受益者の健康状態が改善される。
(2) 事業内容	<p><b>■現地スタッフの雇用およびトレーニング</b></p> <p>本事業 1 年目（フェーズ 1）より雇用している 21 名の現地スタッフに加え、ナムトゥ連絡事務所<sup>1</sup>の警備員を 1 名新規雇用した。現地スタッフに対しては、保健省と世界保健機関（WHO）の水衛生専門家による 3 日間の「水安全計画<sup>2</sup>」を実施した。また、当法人がシャン州コーカン自治地域で実施している母子保健事業<sup>3</sup>を見学する 5 日間のスタディツアーを実施した。その他、スタッフを対象とした所内トレーニングを毎月 2～3 回実施しており、これまでに水安全計画、結核、下痢症、母子保健、デング熱、呼吸器感染症、栄養と調理実習、安全対策をトピックとして扱った。</p> <p><b>■アドボカシーミーティングの開催</b></p> <p>2014 年 3 月、ナムトゥ連絡事務所の開設にあたり郡レベルのアドボカシーミーティングを開催し、郡行政局、郡保健局、郡教育局、他援助団体職員、受益者ら 100 名以上に対し、フェーズ 1 の成果と教訓、および 2 年目である本事業の計画について共有すると同時に、改めて相互連携・調整体制の構築について協議した。</p> <p><b>1) 基礎保健サービスの改善</b></p> <p><b>①ナーサイン地域補助保健センター</b></p> <p>地域補助保健センターの改築工事を行う予定であるナーサイン村区では、2014 年 3 月にそれぞれ 5 名から構成される事業管理委員会および保健委員会を設立した。各委員会は 3 月以降月例ミーティングを開催しており、事業管理委員会は改築工事のモニタリングに関するガイドラインを、保健委員会は改築後のセンター運営および維持管理に関するガイドラインを策定した。</p> <p><b>②ナンタンコン地域補助保健センター</b></p> <p>フェーズ 1 で地域補助保健センターを新設したナンタンコン村区では、5 名から構成される保健委員会が月例ミーティングを開催しており、緊急搬送やセンターの小規模な修復に活用するための基金を住民主導で設立した<sup>4</sup>。また、5 月には、ナーサイン村区の事業管理委員会と保健委員会メンバーを同センターに招待し、同センターが建設中に直面した課題や教訓を共有した。</p> <p><b>2) 保健基礎知識の改善</b></p> <p>各村の健康促進活動を推進する健康促進委員会メンバーに対し、活動の実施にあたり必要な知識・スキルの向上を目的とした健康促進トレーニングを、村区毎に 2 回開催した<sup>5</sup>。また、フェーズ 1 で策定した毎月の活動計画に基づき、2014 年 2 月から 6 月にかけて、各対象村の委員会と本事業スタッフが、結核、HIV/エイズ、下痢</p>

<sup>1</sup> 受益者および郡行政関係者との緊密な連絡体制を整え、より効果的・効率的に協力関係を構築するため、本事業では事業対象地に連絡事務所を設置した。

<sup>2</sup> 水安全計画（Water Safety Plan or WSP）とは、WHO が提唱する水質管理手法で、水源から給水栓までのリスク評価とリスク管理を実施するものである。

<sup>3</sup> 平成 25 年度日本 NGO 連携無償資金協力「シャン州コーカン自治地域における基礎母子保健システム構築支援プロジェクト（フェーズ 1）」

<sup>4</sup> センターが管轄する村に居住する住民は、1 世帯あたり毎月 100 チャット（約 10 円）を寄付している。2014 年 6 月現在、合計額は約 30 万チャット（約 3 万円）である。

<sup>5</sup> 健康促進トレーニングの内容は応急処置および栄養改善。

	<p>症、デング熱、母子保健、呼吸器感染症に関する保健教育を計 214 回、特に 5 歳未満児の母親と妊娠適齢期の女性を対象とした栄養教育を各村で 2 回実施した。これらの保健教育では、より効果的に理解が進み定着するよう、結核に関するパンフレットおよび栄養に関するポスターを作成・配布した。さらに、各村の健康促進委員会は月例ミーティングを行い、活動の実施調整や進捗確認をはじめ、改善点などについても協議している。</p> <p><b>3) 水と衛生環境の改善</b></p> <p>各村の水と衛生状況改善活動を推進する水と衛生委員会メンバーに対し、活動の実施にあたり必要な知識・スキルの向上を目的とした水と衛生トレーニングを、村区毎に 1 回開催した<sup>6</sup>。また、フェーズ 1 で策定した毎月の活動計画に基づき、2014 年 3 月から 6 月にかけて、各対象村の委員会と本事業スタッフが住民を対象に、下痢症、“5-Clean”<sup>7</sup>、環境衛生に関する啓発教育を計 117 回、「水安全計画」研修を各村で 1 回実施した。また、「世界水の日」(3 月 22 日)には手洗いや衛生習慣を促進するイベントを 14 ヶ所で開催し、地域住民約 1,500 人が参加した。イベントでは、作成した水衛生に関する小冊子を参加者に広く配布し説明した他、水運び競走などのゲームなどを通じて、水衛生の重要性を学んでもらった。</p> <p>他方、水供給施設(自然流下方式)の設置については、5 村で新規設置または修復を開始し、各村の水と衛生委員会が中心となって作業を進めている。浅井戸を修復した 1 村では、6 月に全工程が終了し、引き渡し式が開催された。また、各村の世帯数・水へのアクセス・水質等に応じて共用セラミックフィルターを 282 基設置した。フェーズ 1 において水質検査が未実施の水源から入手した水のサンプルはヤンゴンの国立保健研究所で検査中である<sup>8</sup>。さらに、全対象村で共用衛生施設(トイレ)計 176 基が設置された他、対象地にある学校 4 校においても衛生施設(トイレ)の建設を進めている。これらの活動は、各村の水と衛生委員会が、月例ミーティングにおいて実施調整や進捗確認を行い、改善点などについて協議している。</p>
(3) 達成された効果	<p><b>1) 基礎保健サービスの改善</b></p> <p><b>① ナーサイン地域補助保健センター</b></p> <p>2014 年 3 月に事業管理委員会および保健委員会が設立され、各委員会の運営ガイドラインが作成された。3 月から 6 月に実施された月例ミーティングには、2 つの委員会メンバーの 68% が出席した<sup>9</sup>。</p> <p><b>② ナンタンコン地域補助保健センター</b></p> <p>フェーズ 1 で新設した同センターは保健スタッフ 2 名により滞りなく運営されており、2014 年 2 月から 6 月にかけて 532 人の患者が治療や診察に訪れた。また、2 月から 6 月にかけて実施された保健委員会の月例ミーティングには、委員会メンバーの 80% が出席した。</p>

<sup>6</sup> 水と衛生トレーニングの内容は水安全計画。

<sup>7</sup> “5-Clean”とは、ユニセフミャンマーとミャンマー演劇教育(Myanmar Theatrical Association or MTA)が開発した衛生改善ツールで、5つの衛生(手、トイレ、食、水、環境)に関するメッセージを演劇等を通じて教育するものである。

<sup>8</sup> 検査結果は 2014 年 8 月に入手予定である。

<sup>9</sup> 二つの委員会は合同で月例ミーティングを実施している。

	<p><b>2) 保健基礎知識の改善</b></p> <p>2014年2月から6月にかけて実施された各対象村における月例ミーティングには、健康促進委員会メンバーの67%が出席した。また、全対象村で健康促進委員会が運営ガイドラインを作成済みである。さらに、ガイドラインに沿ってアクションプランを実施中であり、6月現在、平均60%を実施済みである。健康促進委員会メンバーと本事業スタッフが合同で実施した健康促進活動（保健教育、栄養教育）には、全受益者の64%にあたる延べ5,428人が参加した。また、委員会メンバーの74%が2回開催した健康促進トレーニングに参加した。</p> <p><b>3) 水と衛生環境の改善</b></p> <p>2014年2月から6月にかけて実施された各対象村における月例ミーティングには、水と衛生委員会メンバーの68%が出席した。また、全対象村で水と衛生委員会が運営ガイドラインを作成済みである。さらに、ガイドラインに沿ってアクションプランを実施中であり、6月現在、平均50%を実施済みである。水と衛生委員会メンバーと本事業スタッフが合同で毎月実施した水と衛生促進活動（啓発教育、水と衛生促進イベント等）には、全受益者の44%にあたる延べ3,701人が参加した。また、委員会メンバーの70%が水と衛生トレーニングに参加した。水衛生施設の建設と同時に啓発活動を実施しているため、手洗い行動、飲料水の煮沸処理・フィルター使用、ハエ防止型共用衛生施設（トイレ）の使用などに行動変容が見られるようになった。</p>
(4) 今後の見通し	<p><b>1) 基礎保健サービスの改善</b></p> <p>ナーサイン地域補助保健センター改築については、2014年6月末現在、保健省からの建設許可を待っているため、許可が下り次第改築工事を開始する。2014年10月竣工の予定で計画しており、完成後はナムトゥ郡保健局と協議の上、医薬品、医療器具および備品を供与する。同センターが管轄する12村<sup>10</sup>の住民に対しては、医療アクセス改善を目的とした「基礎保健サービスに関するワークショップ」を開催する。また、事業地に位置するその他3ヶ所の地域補助保健センターにおいて「基礎保健状況調査」を実施し、各センターの医療サービスの提供状況および周辺地域の住民の利用状況を調査する。調査結果はナムトゥ郡保健局と共有し、必要に応じて医薬品や備品を供与する。また、郡内の基礎保健スタッフを対象としたトレーニングを2回開催し、能力向上とコミュニティとの連携強化を図る。さらに、事業終了前に終了時調査を実施し、基礎保健サービスの改善に関する指標の変化を定量的に測定する。</p> <p><b>2) 保健基礎知識の改善</b></p> <p>月例ミーティングにおける出席率が目標の80%に達していない状況のため<sup>11</sup>、より積極的な出席を促す他、実施方法を検討する。また、ミーティングでアクションプランの進捗状況を確認し、各村で80%以上の活動が実施されるよう側面支援する。また、健康促進委員会メンバーを対象としたトレーニングをさらに各村区で2回実施し、健康促進活動の実施にあたり必要な知識・スキルのさらなる向上を目指すと同時に、委員会メンバーの80%以上が参加するよう働きかける。保健教育は各村で</p>

<sup>10</sup> ナーサイン地域補助保健センターは4村区40村を管轄しているが、そのうち本事業の対象になっているのは12村である。

<sup>11</sup> 雨季は農繁期にあたるため、本事業の活動よりも農作が優先されることがある。夜間の開催など、住民が参加しやすい時間帯の実施を検討している。

毎月1回委員会メンバーが中心となって実施すると同時に、委員会メンバー以外のピアエデュケーターの育成を行う。また、事業地の学校児童・生徒を対象とした保健衛生教育、5歳未満児の母親および妊娠適齢期の女性を対象とした栄養教育および料理コンテスト、妊娠適齢期の女性を対象とした妊娠・出産・栄養に関する教育を、委員会メンバーと本事業スタッフが中心となって実施する。さらに、これらの活動で使用する健康教育教材を、委員会メンバーと本事業スタッフが協同で作成する。「世界エイズデー」(12月1日)には、健康促進イベントを開催し、対象村以外の地域住民に対しても広く啓発活動を行う。また、公的保健医療機関や健康促進活動が順調に進んでいる村を訪問するスタディツアーを村区毎に開催し、学びを各村の活動へフィードバックする。さらに、事業終了前に委員会メンバーを対象とした調査手法トレーニングを実施し、終了時調査を通じて住民が自ら保健知識の改善状況を調査する<sup>12</sup>。

### 3) 水と衛生環境の改善

月例ミーティングにおける出席率が目標の80%に達していない状況のため<sup>13</sup>、より積極的な出席を促す。また、ミーティングでアクションプランの進捗状況を確認し、各村で80%以上の活動が実施されるよう側面支援する。また、水と衛生委員会メンバーを対象としたトレーニングをさらに3回実施し、水と衛生活動の実施にあたり必要な知識・スキルのさらなる向上を目指すと同時に、委員会メンバーの80%以上が参加するよう働きかける。また、委員会メンバーと本事業スタッフが中心となって、住民を対象とした「水安全計画」研修と衛生教育を実施する他、これらの活動で使用する水と衛生に関する教材を協同で作成する。「世界手洗いの日」(10月15日)には、手洗いや衛生習慣を促進するイベントを開催し、対象村以外の地域住民に対しても広く啓発活動を行う。また、各村で策定されたアクションプランに基づき、水供給施設(自然流下方式および浅井戸)13基、共用衛生施設(トイレ)200基、学校用貯水槽1基、学校用衛生施設(トイレ)7基を住民主導で設置・修復し、セラミックフィルターをさらに18基設置する。また、活動が順調に進んでいる村を訪問するスタディツアーを村区毎に開催し、学びを各村の活動へフィードバックする。さらに、事業終了前に委員会メンバーを対象とした調査手法トレーニングを実施し、終了時調査を通じて住民が自ら水衛生環境の改善状況を調査する<sup>14</sup>。

<sup>12</sup> 調査結果は活動開始前に実施したベースライン調査(2013年7月)およびフェーズ1終了前に実施したフォローアップ調査(2013年12月)の結果と比較する。

<sup>13</sup> 雨季は農繁期にあたるため、本事業の活動よりも農作が優先されることがある。夜間の開催など、住民が参加しやすい時間帯の実施を検討している。

<sup>14</sup> 調査結果は活動開始前に実施したベースライン調査(2013年7月)およびフェーズ1終了前に実施したフォローアップ調査(2013年12月)の結果と比較する。